

阿武隈川水系荒川が 15 年連続で「水質が最も良好な河川」となりました！

令和 6 年東北地方一級河川の水質現況を発表

令和 6 年(1～12 月)の東北地方一級河川 12 水系における水質調査結果をとりまとめましたので、お知らせします。

- 東北では阿武隈川水系荒川が 15 年連続で「水質が最も良好な河川」となりました。[東北版 P.2]
- 「生活環境の保全に関する環境基準」のうち、水質汚濁の代表的な指標である BOD または COD の満足状況は、12 水系中 8 水系が「100%」の調査地点で満足する結果。[東北版 P.3]
- 「人の健康の保護に関する環境基準」は、3 地点で基準値を超過(自然由来) [東北版 P.4]
- 住民参加による水質調査も実施。「水生生物による簡易水質調査」の調査で、合わせて「314 人、8 団体」に参加していただき調査を実施。[東北版 P.5～]
- ダイオキシン類実態調査は 12 水系 12 地点の全ての地点で基準値を満足。[東北版 P.7]
- 水質事故は 92 件の発生となり 6 年連続で減少。水質事故の原因は油流出が約 9 割。家庭で灯油タンクから小分け中にその場を離れるなどの不注意によるものが多い。[東北版 P.8～]
- **Colum** 荒川における水環境保全の取り組み[東北版 P.10～]

※本資料は東北地方整備局ホームページ内（記者発表）で掲載しています。

<https://www.thr.mlit.go.jp/>

※国土交通本省ホームページ内で以下のとおり掲載しています。

「全国版の水質現況」及び「各地点調査結果を含む詳細版」

https://www.mlit.go.jp/river/toukei_chousa/kankyo/kankyousuisitu/r6_suisitu.html

＜発表記者會＞ 青森県政記者会、岩手県政記者クラブ、秋田県政記者会、宮城県政記者会、山形県政記者クラブ、福島県政記者クラブ、東北電力記者会、東北建設専門紙記者会

[本件に対するお問い合わせ先]

国土交通省 東北地方整備局 河川部 河川環境課

課 長 ^{かたの}片野 ^{まさあき}正章 (内線 3651)

課長補佐 ^{いしむら}石村 ^{やすし}靖 (内線 3656)

仙台市青葉区本町 3-3-1 仙台合同庁舎 B 棟

Tel 022-225-2171 (代) FAX 022-215-3754

令和 6 年

東北地方

一級河川の水質現況

Recent condition of water quality of class A river in Tohoku

2024

1. 令和 6 年 東北地方の水質調査内容と結果
2. 主要河川の地点別年平均水質
3. 人の健康の保護に関する環境基準の満足状況
4. 住民参加による水質調査
5. ダイオキシン類実態調査結果
6. 水質事故等の発生状況

Colum

荒川における水環境保全の取り組み

Contents

1. 令和 6 年 東北地方の水質調査内容と結果	01
2. 主要河川の地点別年平均水質	02
3. 人の健康の保護に関する環境基準の満足状況	04
4. 住民参加による水質調査	05
5. ダイオキシン類実態調査結果	07
6. 水質事故等の発生状況	08

Colum

荒川における水環境保全の取り組み	10
------------------------	----

(参考資料) 各調査地点 (BOD・COD) 調査結果及び満足状況 13

1. 令和 6 年 東北地方の水質調査内容と結果

東北地方整備局では、河川の適正な利用や河川環境の整備と保全等を図るために、昭和 35 年から一級河川（国土交通省大臣管理区間）において、河川等の水質を定期的及び継続的に調査し、水質状況の監視および把握をおこなっています。

水質の変遷として、高度成長期には急速な都市化、工業化により全国的に公害問題が顕在するなど自然環境の悪化が進行し、「汚い、臭い、遊べない」と言われる河川が多くありました。その後の環境改善の施策や排水規制、下水道整備、河川浄化事業等の推進により、現在の水質は徐々に改善されています。

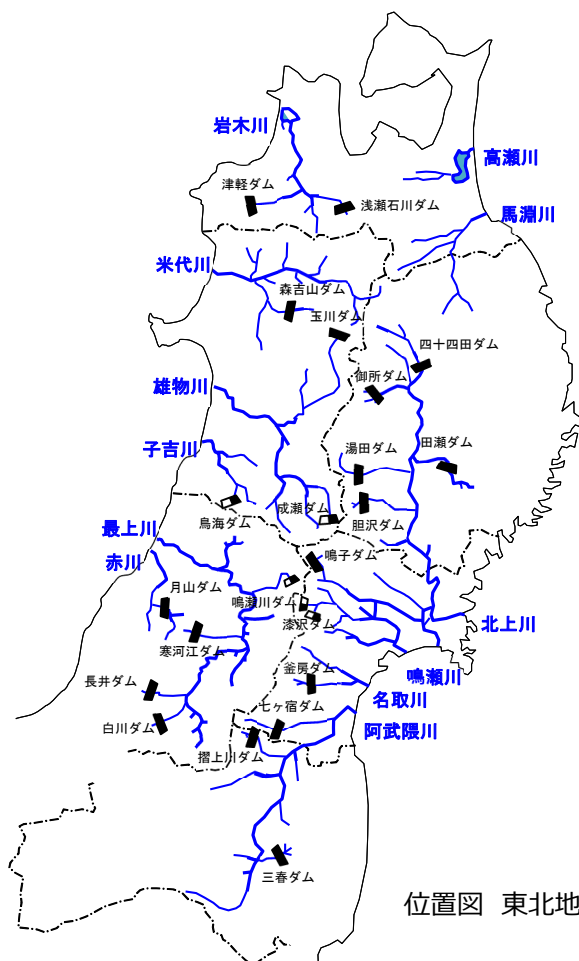
本資料では、令和 6 年 1 月～12 月の東北地方整備局管内の水質調査結果をご紹介します。

1) 東北地方整備局管内による水質調査実施箇所(地点)

・12 水系（全 145 地点）で水質調査を実施

（阿武隈川、名取川、鳴瀬川、北上川、馬淵川、高瀬川、岩木川、米代川、雄物川、子吉川、最上川、赤川）

水質調査地点	地点数	合計地点数
河川	129	145
湖沼	6	
ダム湖	10	



位置図 東北地方整備局管内(12 水系)

水質調査結果は、「生活環境の保全に関する環境基準」項目の BOD(河川)、COD(湖沼、ダム湖)を用いて評価しています。

BOD(生物化学的酸素要求)は、水中の有機物を栄養源として好気性微生物が増殖・呼吸するときに消費される酸素量のことで、河川の水質汚濁の一般的な指標として採用されています。

COD(化学的酸素要求量)は、水中の有機物等を過マンガン酸カリウム(KMnO₄)で化学的に酸化するとき消費される酸化剤の量のことで、湖沼及び海域の水質汚濁の一般的な指標として採用されています。

2. 主要河川の地点別年平均水質

令和6年水質調査結果

- ・東北地方整備局管内の直轄管理区間において、「生活環境の保全に関する環境基準」のうち、BOD の値の平均値と75%値を評価しています。
- ・阿武隈川水系荒川が15年連続で「平均的な水質(BOD 値)が最も良好な河川※」となりました。

令和6年の東北地方20河川の水質状況

：報告下限値未満(0.5未満)

：報告下限値(0.5)

(単位:mg/l)

水系名	河川名	調査地点	平均値	75%値	県名	地点数	水系名	河川名	調査地点	平均値	75%値	県名	地点数
阿武隈川	阿武隈川	黒岩	1.3	1.4	福島	7	北上川	胆沢川	望み大橋	0.5	< 0.5	岩手	3
		高田橋	1.8	1.9	福島				再巡橋	0.6	0.5	岩手	
		須賀川	0.9	0.9	福島				下嵐江	0.5	< 0.5	岩手	
		阿久津	1.0	1.1	福島				馬淵川	馬淵川	櫛引橋	0.8	
		伏黒	1.0	1.2	福島		尻内橋	0.7			1.0	青森	
		岩沼	1.1	1.2	宮城		大橋	1.0			1.2	青森	
		丸森	1.3	1.4	宮城		岩木川	岩木川	鶴寿橋	2.1	2.6	青森	12
阿武隈川	荒川	荒川橋	< 0.5	< 0.5	福島	鳥谷川河口			1.6	2.0	青森		
		信夫橋	0.5	< 0.5	福島	神田橋			1.4	1.4	青森		
名取川	名取川	関上大橋	1.1	1.4	宮城	津軽大橋			1.6	1.9	青森		
		名取橋	1.1	1.3	宮城	十三湖大橋			1.1	1.2	青森		
鳴瀬川	鳴瀬川	小野	1.2	1.5	宮城	幡龍橋			1.5	1.9	青森		
		南郷	0.9	1.1	宮城	山田川河口			1.9	2.9	青森		
		下中ノ目	0.9	1.1	宮城	安東橋			0.7	0.8	青森		
		三本木	0.9	1.1	宮城	十三湖中央			1.9	2.8	青森		
鳴瀬川	吉田川	鹿島台	1.8	2.1	宮城	乾橋			1.9	2.2	青森	2	
		落合	1.4	1.6	宮城	上岩木橋			0.9	0.9	青森		
北上川	北上川	飯野川橋	0.7	0.7	宮城	16	米代川	米代川	鷹巣	0.6	0.7	秋田	5
		飯野川	1.0	1.3	宮城				能代	0.6	0.7	秋田	
		登米	0.7	0.8	宮城				新真中橋（真中橋）	0.6	0.6	秋田	
		大泉	0.7	0.9	宮城				十二所	0.6	0.6	秋田	
		金ヶ崎橋	0.7	0.7	岩手				二ツ井	0.6	0.7	秋田	
		藤橋	0.6	0.5	岩手		雄物川	雄物川	雄物川橋	0.6	0.5	秋田	5
		船田橋(2)	0.6	0.6	岩手				酒蒔橋	0.5	< 0.5	秋田	
		紫波橋	0.7	0.7	岩手				椿川	0.6	0.6	秋田	
		珊瑚橋	0.7	0.8	岩手				岳見橋	0.6	0.6	秋田	
		狐禅寺	0.9	1.0	岩手				大曲橋	0.7	0.8	秋田	
		朝日橋	0.7	0.9	岩手		雄物川	玉川	長野	0.5	< 0.5	秋田	2
		昭和橋	0.7	0.8	岩手				玉川橋	0.5	< 0.5	秋田	
		四十四田ダム下流	0.7	0.8	岩手		子吉川	子吉川	本荘大橋	0.7	0.6	秋田	2
		南大橋	0.6	0.6	岩手				宮内	0.5	0.5	秋田	
		北上川橋	0.8	0.9	岩手		最上川	最上川	高屋	0.7	0.8	山形	8
		北上大橋	0.7	0.7	岩手				長井橋（小出）	1.2	1.3	山形	
北上川	旧北上川	鹿又	1.0	1.0	宮城	谷地橋（下野）			0.7	0.7	山形		
		門脇	0.7	0.8	宮城	糠野目			1.1	1.3	山形		
		和刈	0.8	1.0	宮城	暮点橋（稲下）			0.9	1.0	山形		
北上川	江合川	轟	0.6	< 0.5	宮城	砂越			0.8	0.8	山形	4	
		荒雄	1.0	0.9	宮城	堀内			1.1	1.3	山形		
		短台	0.9	1.1	宮城	両羽橋			0.7	0.7	山形		
		大深沢	0.6	0.6	宮城	戸沢橋			0.6	0.5	山形		
北上川	和賀川	山室橋	0.5	0.5	岩手	最上川	鮭川	八千代橋	0.5	0.5	山形		
		切留	0.6	0.7	岩手			蛾眉橋（横山）	0.6	0.6	山形	3	
		九年橋	0.6	0.5	岩手			赤川	赤川	東橋	0.5		< 0.5
北上川	猿ヶ石川	谷内	0.6	0.7	岩手	3	新川橋（浜中）			0.7	0.9	山形	
		落合橋	0.6	0.6	岩手								
		安野橋	0.7	0.6	岩手								

表中の<は、報告下限値であることを示す。

表中の<は、報告下限値であることを示す。

※「平均的な水質が最も良好な河川」の定義

対象河川のうち以下の両方を満たす河川

・各調査地点のBOD年平均値について、全調査地点で平均をとった値が0.5mg/ℓ

・各調査地点のBOD75%値について、全調査地点で平均をとった値が0.5mg/ℓ (0.5mg/ℓ：環境省の定めるBODの報告下限値)

(対象河川)

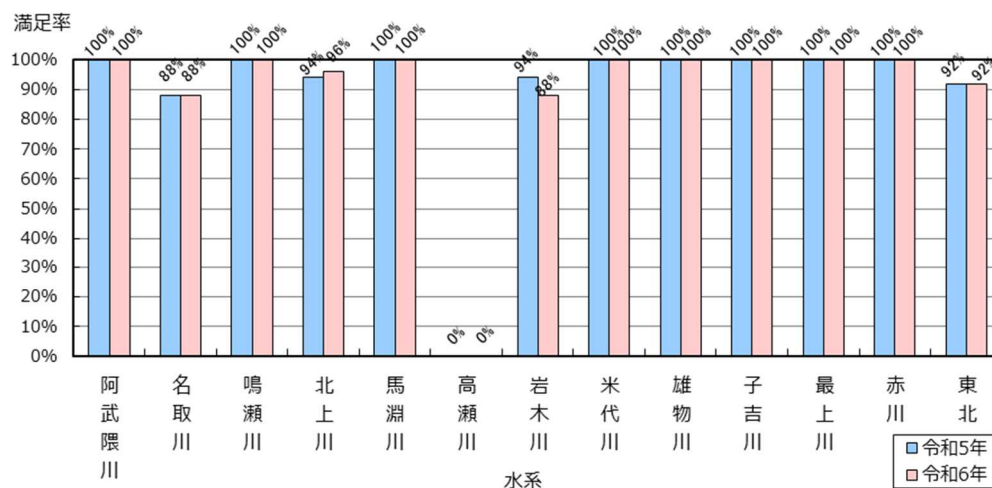
・一級河川(本川)：直轄管理区間に調査地点が2以上ある河川

・一級河川(支川)：直轄管理区間延長が概ね10km以上、かつ直轄管理区間に調査地点が2以上ある河川

令和 6 年水質調査結果

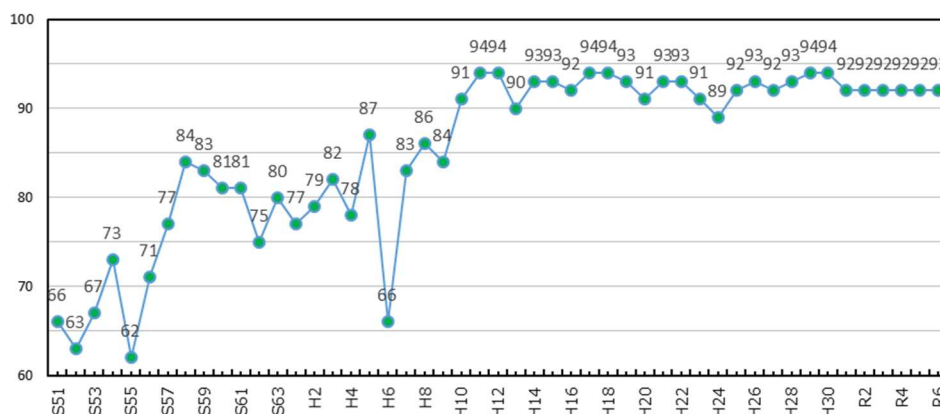
・「生活環境の保全に関する環境基準」項目のうち、BOD 値又はCOD 値（水質有機汚濁の代表的な指標）が全ての調査地点で環境基準を満足した水系は、12 水系中 8 水系となりました。

○令和 6 年は 12 水系中 8 水系において全ての調査地点で BOD 値又は COD 値が環境基準を満足しました。



※高瀬川は、湖沼での調査地点が多く、全国的にも湖沼等（海域を含む）の満足率は 40%と低い数値となっている。

○東北地方整備局管内の全調査地点における BOD 値又は COD 値の経年的な満足状況は、令和 6 年は 92%であり、高い割合で維持しています。



※「環境基準」は、川の一定の区間及びダム・湖沼で、望ましい水質の目標を定めた値で、川の一定区間毎に類型が指定されており、その類型毎に基準値が定められている。一般に河川ではBOD 75%値、ダム・湖沼ではCOD 75%値で判断します。

3. 人の健康の保護に関する環境基準の満足状況

令和6年水質調査結果

・「人の健康の保護に関する環境基準」は、環境基本法に基づき基準(環境基準)が定められており、東北地方整備局管内の直轄管理区間において、27項目の水質調査を実施しています。
 ・ほとんどの地点で環境基準を満足しましたが、砒素が1地点、ほう素が1地点、ふっ素が1地点で環境基準を満足できませんでした。砒素、ほう素、ふっ素はいずれも自然由来の影響となります。

人の健康の保護に関する環境基準項目	
ガドミウム	1, 1, 2-トリクロロエタン
全シアン	トリクロロエチレン
鉛	テトラクロロエチレン
六価クロム	1, 3-ジクロロプロペン
砒素	チウラム
総水銀	シマジン
アルキル水銀	チオベンカルブ
P C B	ベンゼン
ジクロロメタン	セレン
四塩化炭素	硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素
1, 2-ジクロロエタン	ふっ素
1, 1-ジクロロエチレン	ほう素
シス-1, 2-ジクロロエチレン	1, 4-ジオキサン
1, 1, 1-トリクロロエタン	

○環境基準を満足できなかった地点は、砒素が1地点、ほう素が1地点、ふっ素が1地点となります。

超過項目	水系河川名	地点名	最大値 (mg/ℓ)	年間平均値 (mg/ℓ)	環境基準値 (年間平均値) (mg/ℓ)	原因
砒素	北上川水系江合川	大深沢	0.023	0.016	0.01	自然由来
ほう素	北上川水系江合川	大深沢	1.440	1.070	1	自然由来
ふっ素	雄物川水系玉川	玉川ダム	1.410	0.845	1	自然由来

4. 住民参加による水質調査

水生生物による簡易水質調査（水生生物調査）

令和6年水質調査結果

水生生物は水質汚濁の長期的・複合的な影響を反映していると考えられており、これら水生生物の種類や数を調べることで、大まかな河川の水質状況を評価できます。

人間活動による河川への汚濁の影響を受け、水生生物がどのように変化するかという視点から行われた研究を基礎としています。

各水質階級を判断するための指標生物を設定しており、この生物により水質が判断されます。

また、多数の地域の住民（小中学校等）に参加して頂き、河川愛護の必要性を認識していただく良い機会にもなっています。

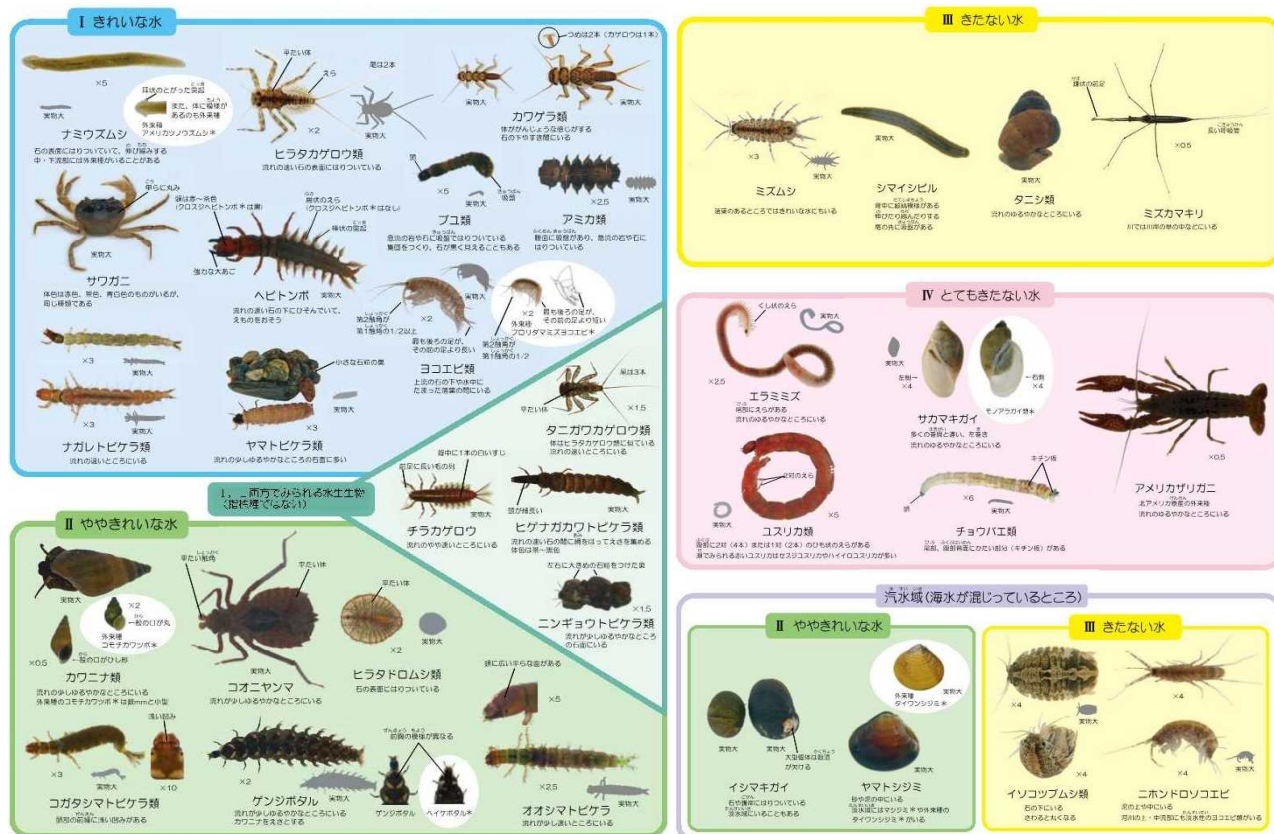
令和6年は6水系10地点で調査を行い、そのうち、住民等参加による調査は5水系7地点で、小中学生等延べ314人、8団体の参加を得て実施しました。

調査結果は全地点で「きれいな水」となり、良好な状況となりました。

【指標生物について】

- ①全国的に見つけることができ、ある程度数がいて、夏の期間は必ずいる種。
- ②誰にでも見つけることができ、似ている種が少なく、区別が簡単。
- ③水の汚れ（有機物濃度）に対しては生息する幅が狭い生物。
- ④水深の浅いところ（水深30cm以下）に生息している生物。

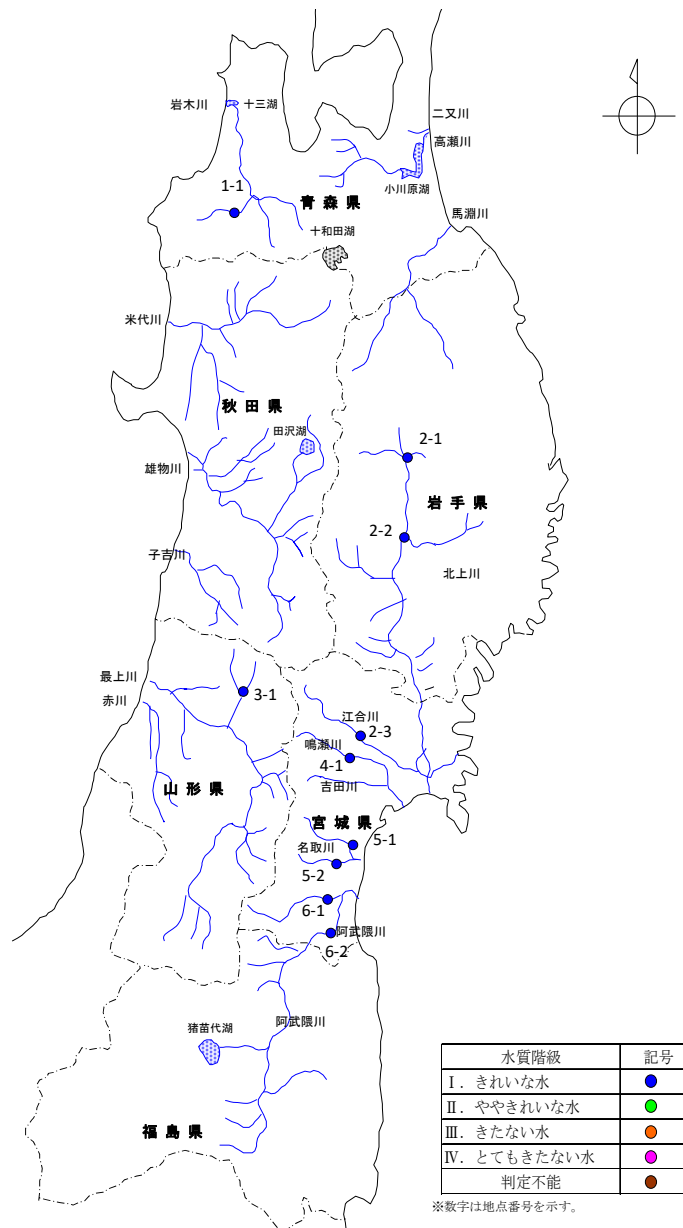
水質階級と指標生物



水生生物調査 水系名、河川名、地点名

水系名	河川名	地点番号	地点名
岩木川	岩木川	1-1	弘前水辺プラザ
北上川	中津川	2-1	上の橋
北上川	北上川	2-2	朝日橋
最上川	金山川	3-1	安久土橋
鳴瀬川	鳴瀬川	4-1	下伊場野水辺の楽校
北上川	江合川	2-3	桜の目橋上流
名取川	広瀬川	5-1	広瀬橋
名取川	名取川	5-2	名取橋
阿武隈川	白石川	6-1	白幡橋
阿武隈川	阿武隈川	6-2	丸森橋

令和6年 水生生物調査地点位置図＜東北＞



5. ダイオキシン類実態調査結果

令和 6 年水質調査結果

ダイオキシン類とは、ダイオキシン類対策特別措置法に定義されている 3 種の化合物群です。毒性が強く、焼却、農薬等の製造、パルプの塩素漂白などで意図せずに生成され残留性が高い物質です。

令和 6 年に実施したダイオキシン類の実態調査では、いずれの地点においても水質・底質の環境基準（水質：1pg-TEQ/ℓ 底質：150pg-TEQ/g）を満足しました。

ダイオキシン類（※1）については、平成 11 年から管内 12 水系 56 地点において継続的に水質と底質の調査を実施しており、令和 6 年は **12 水系 12 地点**において調査を実施しました。

水質・底質ともに、年間の評価値では**全地点で環境基準を満足**しております。

調査結果の概要

	調査地点数	要監視濃度※2を超えた地点数	環境基準値を超えた地点数
水質	12 地点	0 地点	0 地点
底質	12 地点	0 地点	0 地点

※1… ダイオキシン類対策特別措置法に定義される『ポリ塩化ジベンゾーパラジオキシン』『ポリ塩化ジベンゾフラン』『ダイオキシン様塩化ビフェニル』の 3 種の化合物群。非意図的に生成され、毒性が非常に強く、残留性が高い物質。

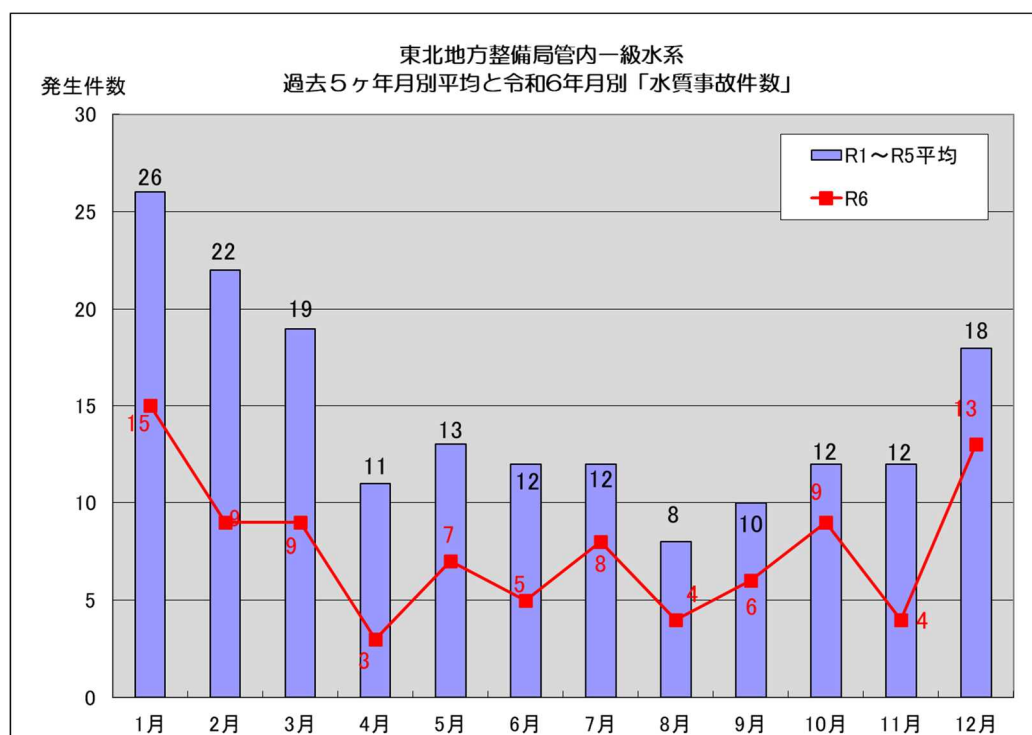
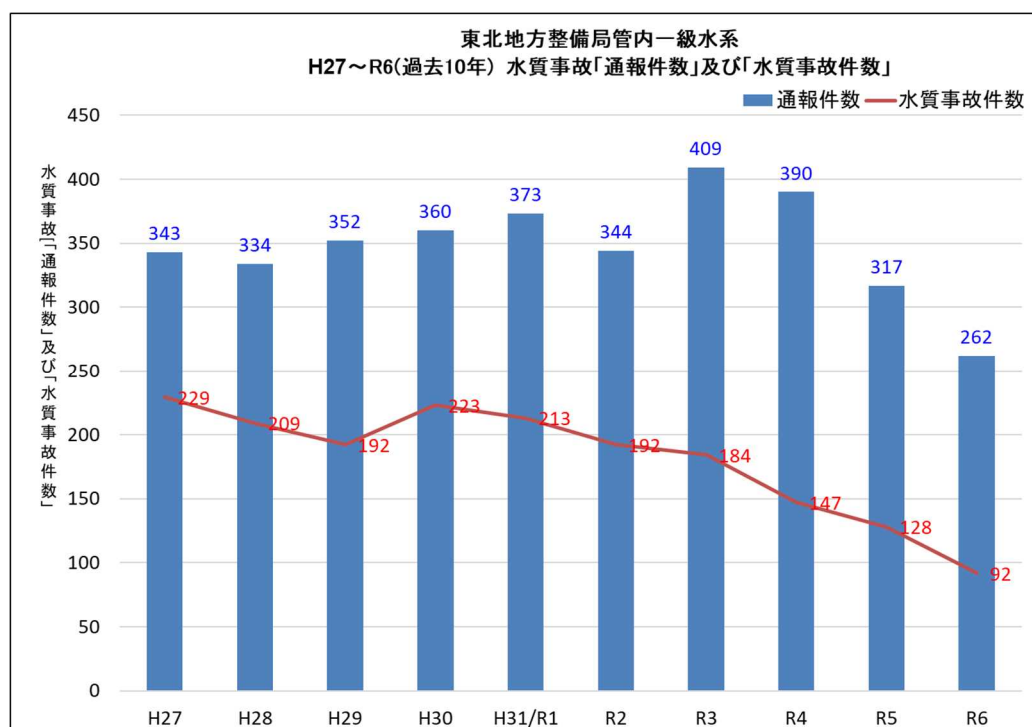
※2… 国土交通省が重点的に監視する際の目安として定めている濃度で、環境基準値の 1/2。要監視濃度を超えた地点については、その後の調査で 8 回連続して要監視濃度を下回るまで、重点監視地点として年 4 回の調査（通常の調査地点は年 1 回）を実施する。

6. 水質事故等の発生状況

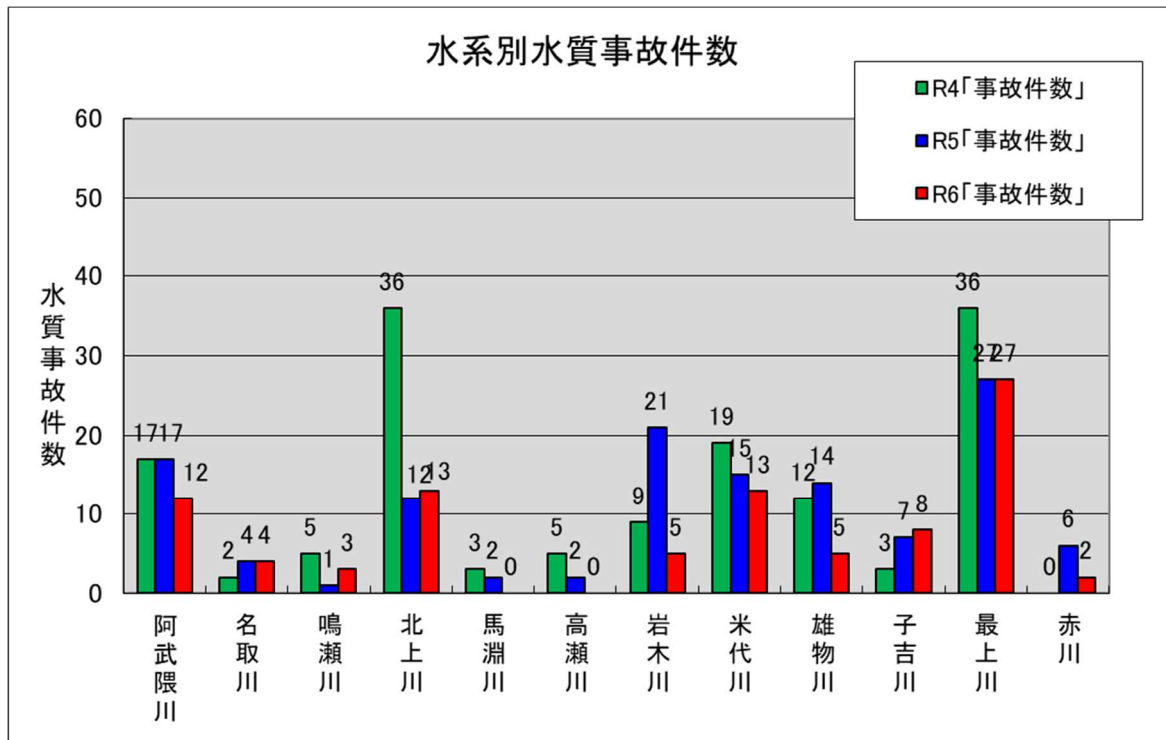
令和6年の東北地方整備局管内での水質事故「通報件数」は262件、内、公共用水域まで流出した「水質事故件数」は、92件。迅速な対応により通報のあったため半数以上が水質事故に至らずに処理されている状況です。

年間の水質事故件数は平成30年以降、6年連続で減少しておりますが、灯油使用の機会が多い冬期間に水質事故件数が増加する傾向となっています。

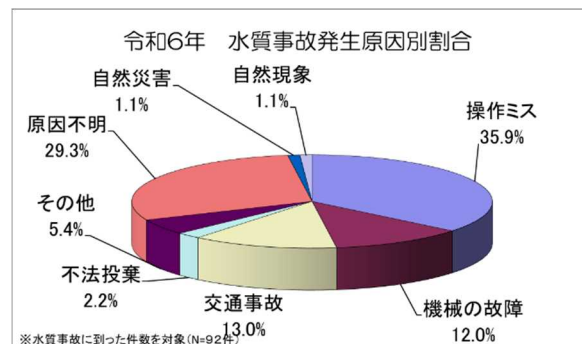
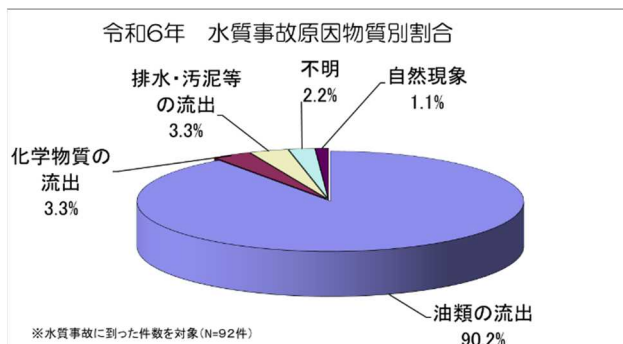
関係機関（国、県、市町村、消防、警察、水道部局等）による各水系水質汚濁対策連絡協議会を設置し、連携を図りながら水質事故の対応にあたっています。



水系別では、最上川、北上川、米代川、阿武隈川の順で水質事故が多い結果となっています。



水質事故の原因は約 9 割が油の流出によるものです。家庭で灯油タンクから小分け中にその場を離れるなどの、不注意によるものが多い結果となっています。



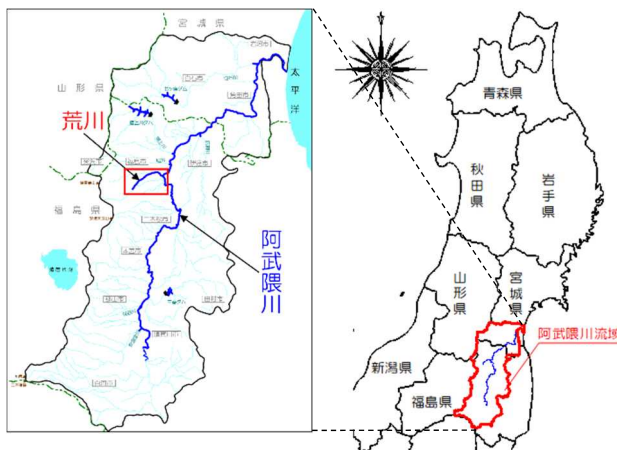
「荒川における水環境保全の取り組み」

荒川の管理を担当している福島河川国道事務所から、水環境保全の取り組みについて紹介します

1. 荒川の概要

荒川は流路延長 26.6km、流域面積 178.1km² の一級河川です。その流れは、2,000m 級の奥羽山系の吾妻連峰から福島市西部の市街地を横切り阿武隈川に注ぎます。途中、吾妻連峰の急峻な谷を駆け下り、水源から阿武隈川合流点まで高低差 1,800mを東鴉川、塩の川などの支川を合流し、地蔵原堰堤から下流で扇状地を形成し、須川と合流し阿武隈川に合流する全国屈指の急流河川です。

荒川沿川は、人口約 27 万人の県都福島市を擁するほか、下流部には東北新幹線、東北自動車道、東北中央自動車道、国道 4 号、国道 13 号の大動脈も走り、資産、人口が集中しており、この地域の中心的な社会、経済活動が営まれています。



i) 土木遺産

荒川は名前の通り「暴れ川」で、豊かな大地を育む一方、豪雨の度に激流が山を削り大量の土砂を流し、古くから土石流や氾濫などの被害が相次いできました。その記録は江戸時代前期の寛永年間まで遡ることができます。このため荒川では、霞堤や水防林による近世からの治水（江戸時代から始まった洪水対策）と近代以降の砂防事業（大正時代から国の手で着手した土砂対策）が融合し、今なお、地域の安全が守り続けられています。そのような防災システムが認められ、荒川の歴史的な治水や砂防事業の取り組み全体が選奨土木遺産（H19.10）に認定されています。同じく、砂防堰堤や床固群は、登録有形文化財（H20.3, H20.7）に認定されています。施設単体でなく、事業全体としての土木遺産の認定は全国的にも極めてレアなケースです。



◀ 地藏原堰堤（登録有形文化財）

登録有形文化財認定施設一覧		
登録有形文化財認定施設		選奨土木遺産認定施設
【平成20年3月19日 認定】	【平成20年7月8日 認定】	【平成19年10月19日 認定】
荒川第1堰堤 昭和12年竣工	荒川第4床固群 昭和29年竣工	荒川治水・砂防事業
荒川第2堰堤 本堤：昭和13年 副堤：昭和16年竣工	塩の川第4堰堤 昭和31年竣工	荒川治水・砂防事業
荒川第3堰堤 昭和15年竣工	塩の川第1堰堤 昭和29年竣工	荒川治水・砂防事業—砂防堰堤群
川上第1堰堤 昭和21年竣工	東鴉川第1堰堤 昭和26年竣工	荒川治水・砂防事業—川上第1堰堤
荒川第5堰堤 昭和29年竣工	東鴉川第3堰堤 昭和28年竣工	荒川治水・砂防事業—床固群
荒川第6堰堤 昭和25年竣工	東鴉川第4堰堤 昭和32年竣工	荒川治水・砂防事業—水防林・霞堤群
荒川第7堰堤 昭和26年竣工		荒川治水・砂防事業—水防林・霞堤群
荒川第8堰堤 昭和27年竣工		荒川治水・砂防事業—地蔵原堰堤
地蔵原堰堤 大正14年竣工 (第1次)		
計 15施設		認定プレート 計8枚

◎ 近世から荒川の治水対策（霞堤と水防林）



【霞堤】

洪水時に堤防の切れ目から増水した川の水を氾濫させて下流の被害を少なくする。

【水防林】

洪水の水の勢いを弱めて、被害を少なくする。

ii) 活用状況

荒川には、歴史的な治水・砂防施設や豊かな自然、良好な水質を有し、周辺には文化施設など観光資源が数多く立地しており、これらを観光ツールとして有機的に活用するまちづくりが進められています。以前から、市民が荒川とふれあう数々のイベントが開催されており、これらのイベントでは選奨土木遺産への認定後に参加者数が増加しより多くの市民が参加しています。

地域の方々の河川環境への意識も高く、河川協力団体や住民等の参加による河川愛護活動、河川清掃等が積極的に行われ、河川環境を保全する取り組みを実施しています。



インフラツーリズム
(荒川土木遺産を対象としたファムツアーを開催)



あらかわ・ふるさとの川ウォーキング



霞堤手入れ大作戦



福島シティハーフマラソン 2024 あづま荒川クロスカントリー大会

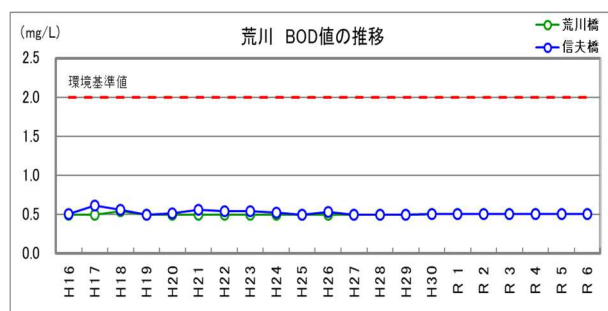


2. 荒川が15年連続で「水質が最も良好な河川」に

国土交通省では、国が管理する一級河川における令和6年の水質調査結果を発表し、その結果、福島市の荒川が15年連続で「水質が最も良好な河川」になりました。

年間を通じた清掃活動や各種イベントの開催等、地域（市民）の手による河川愛護のたまものです。

荒川は流域に、福島市という大きな都市を抱えており、流域内の人口密度も高く、他河川と比較しても特異な存在といえます。



水質が良好に保たれている要因については、人為的要因のほか、自然的要因の、「急流河川であり、淵と瀬が連続している」「支川須川（酸性河川）の流入が影響している」「吾妻山系からの伏流水（湧水）」など諸説がありますが、引き続き、官民一体となって水環境保全に取り組んでいき、20年、25年連続と記録を更新できるよう努めてまいります。

3. 水質事故の発生状況

阿武隈川水系における公共用水域の水質事故は、近年では令和4年が17件、令和5年が17件、令和6年が12件となっています。荒川における公共用水域の水質事故は0件でした。

令和6年の水質事故の発生状況を見ると、原因物質別で9件が油類、2件が化学物質、1件が不明であり、その原因は操作ミス、交通事故、不法投棄、その他、原因不明によるものとなっています。操作ミスや交通事故等は、一般家庭や個人の不注意によるもので、その点を改善できれば事故件数を減らすことができるものです。

4. 水質汚濁対策連絡協議会の活動

河川水質汚濁対策及び河川環境の保全に関する各関係機関相互の連絡調整を図ることを目的として、国土交通省、県、警察、流域市町村、消防で構成する「水質汚濁対策連絡協議会」を設置しています。

水質汚濁対策連絡協議会では、水環境保全のため次の取り組みを行っています。

①荒川クリーンアップ大作戦

毎年恒例となっている「荒川クリーンアップ大作戦」は、ふるさとの川・荒川づくり協議会（※）の主催で地域住民、沿川の企業、行政関係者が参加しています。令和6年は2回実施され約800人が、みんなの力で河川環境を守り育てるためのクリーン活動をしています。



◀開会の挨拶



◀清掃の様子



◀集められたゴミ

（※）ふるさとの川・荒川づくり協議会は、荒川において20年以上にもわたる保全活動の継続性やその活動の多様性はもちろんのこと、多くの個人や企業等の理解と協力を得て行ってきた活動は、荒川を通じて地域における良好な水環境を創出する優れた取り組みとして高く評価され、「第21回（2019年）日本水大賞（環境大臣賞）」を受賞した団体です。また、平成26年には河川協力団体に指定されています。

②水質事故対応訓練

本格的な冬を迎える前に、油類等が河川や水路に流出した際の“迅速かつ的確な対応による被害の拡大防止”を目的に消防署と各自治体の水質事故対応担当者が参加する訓練を毎年開催しています。

参加者にはオイルフェンス設置訓練・側溝(水路)での油流出防止訓練・水質異常時の現地初期対応訓練等を体験することで水質事故対応の迅速な初動対応と理解度を深めていただくよう努めています。



◀オイルフェンス設置訓練



◀側溝での油流出防止訓練



◀水質異常時の初期対応訓練

③広報活動

水質事故防止啓発用チラシ・水質事故発生マップを作成し、配布及びホームページで紹介しています。また、ラジオでCMによる啓発活動、市町村の広報・新聞に掲載するなど、水質事故防止へ向けた活動を行っています。



◀水質事故防止啓発用チラシ



◀水質事故発生マップ

5. 最後に

荒川は歴史的な治水・砂防施設だけではなく、良好な水質や観光資源数が多く、これらが荒川の財産となっています。今後更なる積極的かつ自発的に地域の活性化が期待されています。世代を超えて地域の多くの方々の関わりやつながりにより、荒川を次の世代により良い形で引き継いでいくとともに、河川を大切にする“こころ”も次の世代に伝えていきたいと考えます。荒川はもちろんのこと、阿武隈川水系全体の水環境を今後も継続して保全していきます。近年では、荒川の河川空間を利用した多種多様なイベントが開催されていますので、皆さんも是非、“福島荒川”へ足を運んでみて下さい。

参考資料

- 生活環境の保全に関する環境基準項目のうち、BOD値又はCOD値（水質有機汚濁の代表的な指標）の平均値および75%値を評価しています。
- 東北地方整備局管内の河川、湖沼、ダム湖の全ての調査地点(145 地点)で水質調査を行っています。

河川の水質現況(BOD又はCOD)と環境基準の満足状況

令和6年						
水系名	河川名	地点名	環境基準 (類型)	年間 平均値 (mg/L)	75%値 (mg/L)	環境基準 満足状況
						○：満足 －：未設定
阿武隈川	阿武隈川	阿久津	B	1.0	1.1	○
阿武隈川	阿武隈川	丸森	B	1.3	1.4	○
阿武隈川	阿武隈川	岩沼	A	1.1	1.2	○
阿武隈川	阿武隈川	高田橋	B	1.8	1.9	○
阿武隈川	阿武隈川	黒岩	B	1.3	1.4	○
阿武隈川	阿武隈川	須賀川	B	0.9	0.9	○
阿武隈川	阿武隈川	伏黒	B	1.0	1.2	○
阿武隈川	阿武隈川	舟場	B	0.8	0.6	○
阿武隈川	荒川	荒川橋	A	<0.5	<0.5	○
阿武隈川	荒川	信夫橋	A	0.5	<0.5	○
阿武隈川	釈道堂川	下宿	B	0.8	0.9	○
阿武隈川	摺上川	摺上川ダム	A	0.5	<0.5	○
阿武隈川	大滝根川	三春ダム	A	1.2	1.5	○
阿武隈川	白石川	七ヶ宿ダム	A	2.6	2.7	○
名取川	広瀬川	三橋	B	0.8	0.8	○
名取川	前川	北向橋	AA	0.5	<0.5	○
名取川	太郎川	いもくぼ橋	AA	0.6	0.6	○
名取川	北川	北川橋	AA	0.6	0.6	○
名取川	名取川	名取橋	B	1.1	1.3	○
名取川	名取川	関上大橋	B	1.1	1.4	○
名取川	汎川	名取川合流前	C	0.9	1.0	○
名取川	磐石川	釜房ダム	AA	2.7	3.0	○
鳴瀬川	吉田川	鹿島台	B	1.8	2.1	○
鳴瀬川	吉田川	落合	B	1.4	1.6	○
鳴瀬川	蓋川	蓋川橋	B	1.3	1.6	○
鳴瀬川	鳴瀬川	下中ノ目	A	0.9	1.1	○
鳴瀬川	鳴瀬川	三本木	A	0.9	1.1	○
鳴瀬川	鳴瀬川	小野	B	1.2	1.5	○
鳴瀬川	鳴瀬川	南郷	A	0.9	1.1	○
北上川	猿ヶ石川	安野橋	A	0.7	0.6	○
北上川	猿ヶ石川	落合橋	A	0.6	0.6	○
北上川	猿ヶ石川	谷内	A	0.6	0.7	○
北上川	旧北上川	鹿又	B	1.0	1.0	○
北上川	旧北上川	門脇	B	0.7	0.8	○
北上川	旧北上川	和刈	A	0.8	1.0	○
北上川	江合川	荒雄	B	1.0	0.9	○
北上川	江合川	轟	AA	0.6	<0.5	○
北上川	江合川	大深沢	AA	0.6	0.6	○
北上川	江合川	短谷	B	0.9	1.1	○
北上川	砂鉄川	門崎橋	A	0.5	<0.5	○
北上川	雫石川	東北本線鉄橋	A	0.6	0.6	○
北上川	雫石川	御所ダム下流	A	0.7	0.7	○
北上川	雫石川	春木場	A	0.5	0.5	○
北上川	葛根田川	葛根田	A	0.5	0.5	○
北上川	南川	南川	A	0.6	0.6	○
北上川	小鬼ヶ瀬川	天子森	未	0.5	0.5	-
北上川	小友川	小友橋	A	0.5	<0.5	○
北上川	前川(北上川水系)	前川	AA	0.5	<0.5	○
北上川	胆沢川	下嵐江	AA	0.5	<0.5	○
北上川	胆沢川	再巡橋	A	0.6	0.5	○
北上川	胆沢川	望み大橋	A	0.5	<0.5	○
北上川	胆沢川	胆沢ダム貯水池	A	0.5	0.5	○
北上川	尿前川	尿前橋	未	0.5	0.5	-
北上川	中津川	御殿橋	A	0.6	0.5	○
北上川	磐井川	狐禅寺橋	C	0.7	0.9	○
北上川	磐井川	上の橋	A	0.5	0.5	○
北上川	北上川	金ヶ崎橋	A	0.7	0.7	○
北上川	北上川	狐禅寺	A	0.9	1.0	○
北上川	北上川	珊瑚橋	A	0.7	0.8	○
北上川	北上川	四十四田ダム下流	A	0.7	0.8	○
北上川	北上川	紫波橋	A	0.7	0.7	○
北上川	北上川	昭和橋	A	0.7	0.8	○
北上川	北上川	船田橋(2)	A	0.6	0.6	○
北上川	北上川	大泉	A	0.7	0.9	○
北上川	北上川	朝日橋	A	0.7	0.9	○
北上川	北上川	登米	A	0.7	0.8	○
北上川	北上川	藤橋	A	0.6	0.5	○
北上川	北上川	南大橋	A	0.6	0.6	○
北上川	北上川	飯野川	A	1.0	1.3	○
北上川	北上川	飯野川橋	A	0.7	0.7	○
北上川	北上川	北上川橋	A	0.8	0.9	○
北上川	北上川	北上大橋	A	0.7	0.7	○
北上川	和賀川	九年橋	A	0.6	0.5	○
北上川	和賀川	山室橋	AA	0.5	0.5	○
北上川	和賀川	切室	AA	0.6	0.7	○
北上川	猿ヶ石川	田瀬ダム貯水池	A	2.8	3.5	○
北上川	江合川	鳴子ダム	AA	2.2	2.2	○
北上川	雫石川	御所ダム貯水池	A	1.8	2.0	○
北上川	北上川	四十四田ダム貯水池	A	2.3	3.5	○
北上川	和賀川	湯田ダム貯水池	A	2.1	2.4	○
湖沼における類型(COD)						
○印：環境基準を満足した地点、一印：環境基準類型指定が未設定の地点						
水系名	河川名	地点名	環境基準 (類型)	年間 平均値 (mg/L)	75%値 (mg/L)	環境基準 満足状況
						○：満足 －：未設定
馬淵川	馬淵川	櫛引橋	A	0.8	1.0	○
馬淵川	馬淵川	尻内橋	B	0.7	1.0	○
馬淵川	馬淵川	大橋	B	1.0	1.2	○
高瀬川	高瀬川	河口	A	3.5	4.7	○
高瀬川	高瀬川	高瀬橋	A	5.3	6.0	○
高瀬川	高瀬川	小川原湖(No.A)	A	6.0	5.8	○
高瀬川	高瀬川	小川原湖(No.C)	A	10.0	12.0	○
高瀬川	高瀬川	小川原湖(No.G)	A	29.0	31.0	○
高瀬川	高瀬川	小川原湖(No.H)	A	20.0	23.0	○
岩木川	岩木川	安東橋	A	0.7	0.8	○
岩木川	岩木川	乾橋	A	1.9	2.2	○
岩木川	岩木川	三好橋	A	1.6	1.7	○
岩木川	岩木川	山田川河口	B	1.9	2.9	○
岩木川	岩木川	十三湖大橋	B	1.1	1.2	○
岩木川	岩木川	十三湖中央	B	1.9	2.8	○
岩木川	岩木川	上岩木橋	A	0.9	0.9	○
岩木川	岩木川	神田橋	A	1.4	1.4	○
岩木川	岩木川	鳥谷川河口	B	1.6	2.0	○
岩木川	岩木川	津軽大橋	B	1.6	1.9	○
岩木川	岩木川	鶴寿橋	A	2.1	2.6	○
岩木川	岩木川	幡能橋	A	1.5	1.9	○
岩木川	浅瀬石川	朝日橋	A	0.8	0.9	○
岩木川	平川	平川橋	A	0.8	0.9	○
岩木川	平川	豊平橋	A	0.9	1.0	○
岩木川	岩木川	津軽ダム	A	2.0	2.4	○
岩木川	浅瀬石川	浅瀬石川ダム	A	2.5	2.6	○
米代川	小又川	森吉山ダム	未	0.6	0.8	-
米代川	米代川	十二所	B	0.6	0.6	○
米代川	米代川	新真中橋(真中橋)	B	0.6	0.6	○
米代川	米代川	鷹巣	B	0.6	0.7	○
米代川	米代川	二ツ井	B	0.6	0.7	○
米代川	米代川	能代	B	0.6	0.7	○
雄物川	横手川	藤木上橋	B	1.0	1.1	○
雄物川	皆瀬川	岩崎橋	A	0.5	0.5	○
雄物川	玉川	玉川ダム	AA	<0.5	<0.5	○
雄物川	玉川	玉川橋	A	0.5	<0.5	○
雄物川	玉川	長野	A	0.5	<0.5	○
雄物川	成瀬川	真人橋	AA	0.5	<0.5	○
雄物川	雄物川	岳見橋	A	0.6	0.6	○
雄物川	雄物川	酒樽橋	A	0.5	<0.5	○
雄物川	雄物川	大曲橋	A	0.7	0.8	○
雄物川	雄物川	樽川	A	0.6	0.6	○
雄物川	雄物川	雄物川橋	A	0.6	0.5	○
子吉川	子吉川	宮内	A	0.5	0.5	○
子吉川	子吉川	本荘大橋	B	0.7	0.6	○
最上川	寒河江川	中村	AA	0.8	0.9	○
最上川	最上川	基点橋	A	0.9	1.0	○
最上川	最上川	谷地橋	A	0.7	0.7	○
最上川	最上川	糖野目	A	1.1	1.3	○
最上川	最上川	高屋	A	0.7	0.8	○
最上川	最上川	砂越	A	0.8	0.8	○
最上川	最上川	長井橋	A	1.2	1.3	○
最上川	最上川	堀内	A	1.1	1.3	○
最上川	最上川	両羽橋	A	0.7	0.7	○
最上川	鮎川	戸沢橋	A	0.6	0.5	○
最上川	鮎川	八千代橋	AA	0.5	0.5	○
最上川	須川	落合橋	B	1.0	1.0	○
最上川	相沢川	宝永橋	A	0.6	0.7	○
最上川	村山野川	舟戸橋	A	1.2	1.9	○
最上川	丹生川	丹生川大橋	A	0.6	0.6	○
最上川	置賜白川	白川ダム	A	0.7	0.8	○
最上川	置賜野川	長井ダム	A	0.6	0.6	○
最上川	立谷沢川	東雲橋	A	0.5	0.5	○
最上川	寒河江川	寒河江ダム	A	2.4	2.8	○
赤川	赤川	雄冠橋(横山)	A	0.6	0.6	○
赤川	赤川	新川橋(浜中)	A	0.7	0.9	○
赤川	赤川	東橋	A	0.5	<0.5	○
赤川	梵字川	月山ダム	A	0.6	0.6	○
東北管内合計						92% (134/145)

●河川における類型別環境基準（BOD75%値）

AA 類型：1mg/L以下

A 類型：2mg/L以下

●河川における類型別環境基準(BOD75%値)

AA 類型：1mg/L以下

A 類型：2mg/L以下

B 類型：3mg/L以下

C 類型：5mg/L以下

D 類型：8mg/L以下

E 類型：10mg/L以下

●湖沼における類型別環境基準(COD75%値)

AA 類型：1mg/L以下

A 類型：3mg/L以下

令和6年東北地方一級河川の水質現況 概要パンフレット
Recent condition of water quality of class A river in Tohoku

<http://www.thr.mlit.go.jp/>



国土交通省 東北地方整備局
河川部 河川環境課

〒980-8602
仙台市青葉区本町 3-3-1 仙台合同庁舎B棟
Tel. 022-225-2171 (代表)

Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism Tohoku Regional Bureau